

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が1,305例あり、本年の累積報告数は103,918例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(70歳代男性)あり、本年の累積報告数は13例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(90歳代女性)(第22週追加報告分)あり、症状は肺炎、菌血症でした。本年の累積報告数は12例となりました。
- 梅毒の報告が3例(20歳代女性2人及び40歳代男性1人)(第20週追加報告分1例含む)あり、感染経路はいずれも性的接触です。本年の累積報告数は45例となりました。
京都市では、HIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を予約制で実施しています。詳細については、下記のホームページをご覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告が1例(50歳代男性)あり、症状は発熱、菌血症です。本年の累積報告数は2例となりました。
- 感染性胃腸炎の定点当たりの報告数は、京都市・全国ともに3週連続で同程度で推移していますが、いずれも過去5年平均値程度あるいはそれを下回って推移しており、流行とまでは言えません。しかしながら、夏に向かって食中毒や施設等での集団発生に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

本市における今週の咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.60と少ないものの、3週連続で過去10年平均を上回っています。咽頭結膜熱は例年、6月～8月の夏と11月～1月の冬に流行する傾向があります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 2例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 97例(肺結核 45例, その他結核 24例, 潜在性結核感染者 28例)うち喀痰塗抹陽性 17例】
- 新型コロナウイルス感染症 1,305例【1月以降の累積報告数103,918例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- 五類:梅毒 3例【1月以降の累積報告数 45例】
- 五類:バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

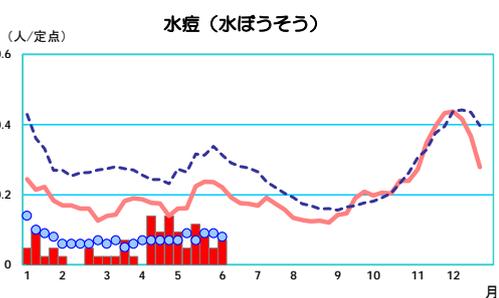
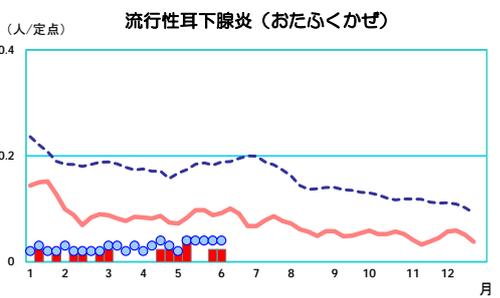
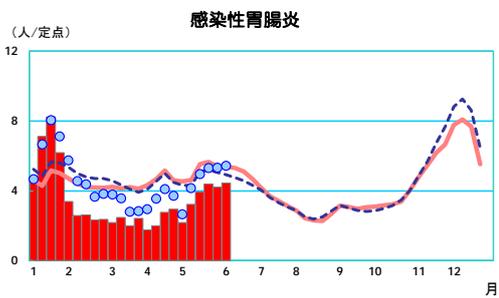
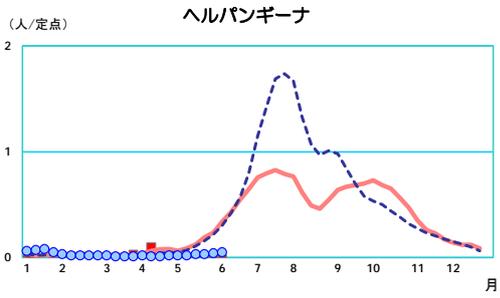
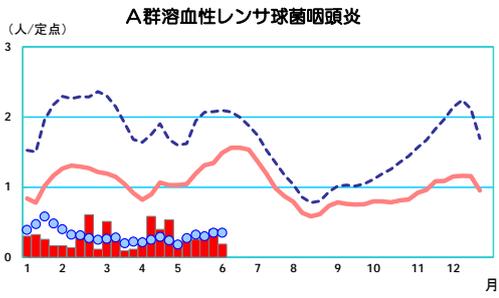
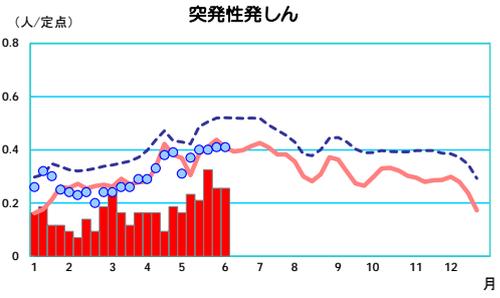
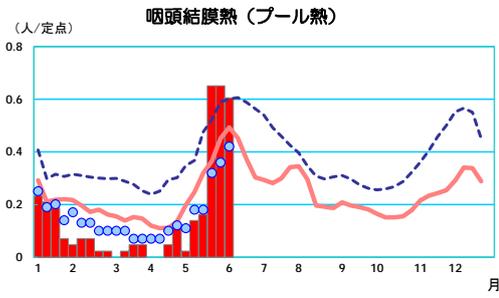
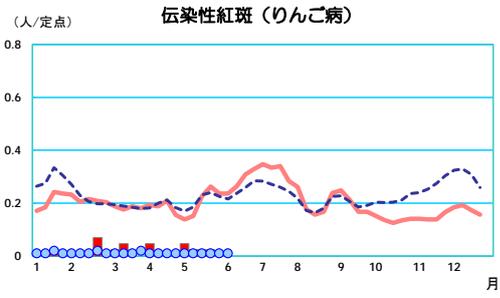
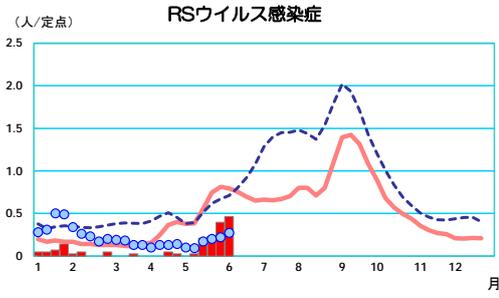
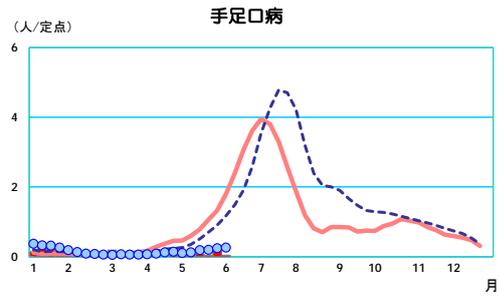
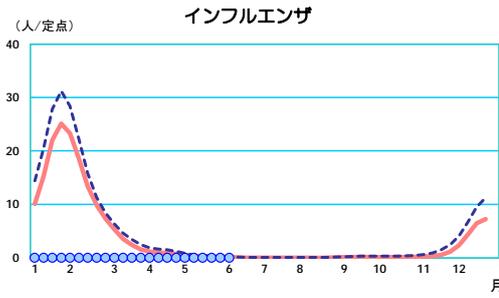
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.44	191
	② 咽頭結膜熱	0.60	26
	③ RSウイルス感染症	0.47	20
	④ 突発性発しん	0.26	11
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.19	8
眼科	流行性角結膜炎	0	0

【次ページ以降の主な内容】

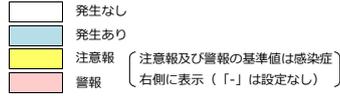
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年6月15日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

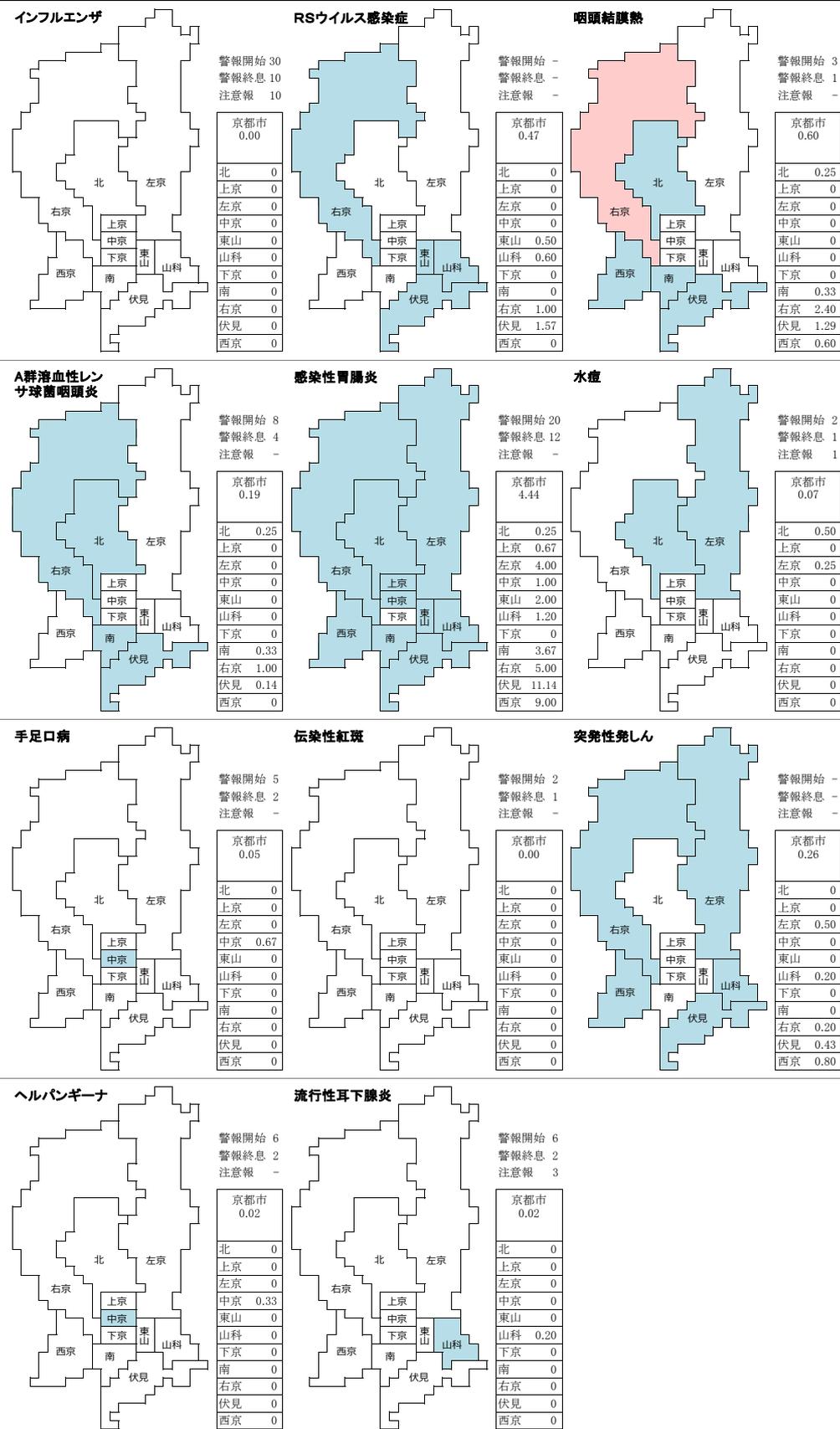
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第23週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第23週(6月6日～6月12日) トピックス: <咽頭結膜熱>

本市における今週の咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.60と少ないものの、3週連続で過去10年平均を上回っています(図1)。咽頭結膜熱は例年、6月～8月の夏と11月～1月の冬に流行する傾向があります(図1、2の過去10年平均)。

新型コロナウイルス感染症対策が始まった2020年3月以降、本市ではおおむね過去10年平均を下回っていましたが、2021年5～6月には過去10年平均と同程度まで増加しており、今年は2021年を更に上回っています。例年、咽頭結膜熱の報告は多くありませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により、免疫を持たない未就学児が増加していると考えられるため、今後の動向に注意が必要です。また、全国でも2020年3月以降は過去10年平均を下回っていますが、第21週から増加しています(図2)。なお、本市・全国ともに未就学児である5歳以下の割合が年々増加しており、特に1歳の報告が顕著に増加しています(図3、4)。

咽頭結膜熱の原因はアデノウイルスです。アデノウイルスは型によって肺炎などの呼吸器症状や感染性胃腸炎といった消化器症状、更には流行性角結膜炎のような眼疾患に加え、泌尿器疾患や肝炎など多彩な症状を引き起こします。咽頭結膜熱を起こすのはこのうち、主に3型とされています。

感染経路は飛沫感染や接触感染で、呼吸器や目から感染します。プールや入浴施設で、病原体に汚染された水やそれに触れた手指・タオルから目へ感染することがあるため、「プール熱」とも呼ばれます(適切に塩素消毒が行われていれば、感染のリスクは低減できます)。

咽頭結膜熱にかかると、発熱や頭痛、倦怠感、咽頭炎、結膜炎等が現れます。結膜炎が原因でまぶたの結膜が充血し、目脂が多くなり、羞明が見られることもあります。アデノウイルスの「adeno」とは「腺組織」を意味しますが、その名のとおおり頸部リンパ節が腫れることもあります。

咽頭結膜熱は感染症法における五類感染症(定点把握疾患)ですが、学校保健安全法における第二種伝染病にも指定されており、感染した際は主要な症状がなくなってから2日が経つまで出席停止を求められています。

咽頭結膜熱が保育所などで集団発生すると、家庭内でも感染が広がってしまいます。予防には石けんを用いて流水で手指をよく洗うこと、タオルの共用を避けることが効果的です。手洗い後のエタノールによる手指消毒も効果があります。家庭内での感染症を防ぐために、手洗いやタオルの取り換えをこまめに行いましょう。

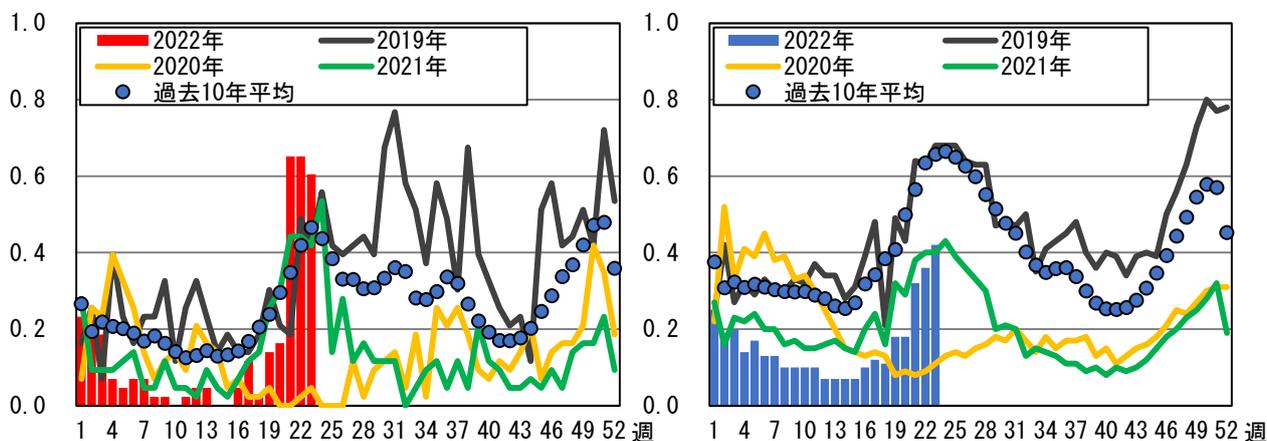


図1. 咽頭結膜熱の定点当たり報告数(京都市) 図2. 咽頭結膜熱の定点当たり報告数(全国)

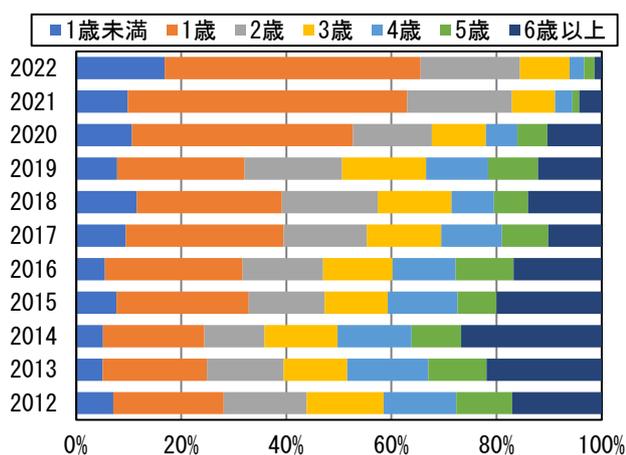


図3. 咽頭結膜熱の年齢構成比(京都市)

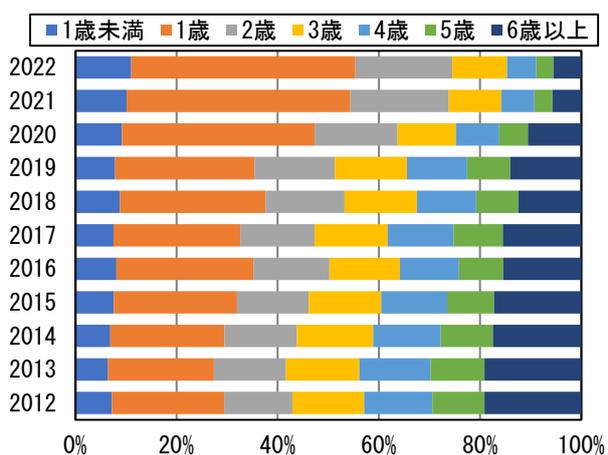


図4. 咽頭結膜熱の年齢構成比(全国)

※図中の2022年のデータは、第1週～第23週までを示している。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第23週

疾病,行政区別報告数

2022年6月6日～2022年6月12日

データ入手日:2022年6月15日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計	-	-	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	16	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	3	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	3	-	-	6	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	1	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	5	12	5	25	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	11	9	1	78	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	3	-	45	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	20	26	8	191	3	2	-	11	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計	-	-	0.25	0.25	0.25	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	0.25	0.25	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	4.00	0.25	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	1.00	-	0.67	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	0.60	-	-	1.20	-	-	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	0.33	0.33	3.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	1.00	2.40	1.00	5.00	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	1.57	1.29	0.14	11.14	-	-	-	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	0.60	-	9.00	-	-	-	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.47	0.60	0.19	4.44	0.07	0.05	-	0.26	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第23週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年6月6日～2022年6月12日

データ入手日:2022年6月15日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	20	3	1	4	10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		26	-	7	9	6	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		8	-	-	1	-	2	2	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		191	2	14	40	21	21	23	13	10	8	6	5	11	5	12	-	-	-	-	-	-	-
水痘		3	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		11	1	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.47	0.07	0.02	0.09	0.23	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.60	-	0.16	0.21	0.14	0.02	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.19	-	-	0.02	-	0.05	0.05	-	-	-	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		4.44	0.05	0.33	0.93	0.49	0.49	0.53	0.30	0.23	0.19	0.14	0.12	0.26	0.12	0.28	-	-	-	-	-	-
水痘		0.07	-	-	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.26	0.02	0.12	0.12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第23週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年6月15日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	1	9	10	17	20
咽頭結膜熱	1	6	7	28	28	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	12	11	12	17	8
感染性胃腸炎	94	139	169	189	181	191
水痘	4	2	5	4	2	3
手足口病	2	1	3	2	7	2
伝染性紅斑	2	1	1	1	-	-
突発性発しん	7	10	9	14	11	11
ヘルパンギーナ	-	-	1	1	1	1
流行性耳下腺炎	1	2	-	-	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	1	1	1	2	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	121	175	216	262	267	263

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	0.02	0.21	0.23	0.40	0.47
咽頭結膜熱	0.02	0.14	0.16	0.65	0.65	0.60
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.19	0.28	0.26	0.28	0.40	0.19
感染性胃腸炎	2.19	3.23	3.93	4.40	4.21	4.44
水痘	0.09	0.05	0.12	0.09	0.05	0.07
手足口病	0.05	0.02	0.07	0.05	0.16	0.05
伝染性紅斑	0.05	0.02	0.02	0.02	-	-
突発性発しん	0.16	0.23	0.21	0.33	0.26	0.26
ヘルパンギーナ	-	-	0.02	0.02	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	0.05	-	-	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.10	0.10	0.10	0.20	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.97	4.15	5.10	6.17	6.36	6.12

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。